

令和7年度 第3回大津市教科用図書選定審議会【会議概要】

日時：令和7年7月18日（金）18:00～20:30

会場：大津市役所新館2階 災害対策本部室

1 出席者

(1) 選定審議会委員（5名）

榎本恵理委員、山田淳子委員、小森美恵子委員、山尾健一委員、菊谷愛委員

(2) 事務局（4名）

田中義也学校教育課長、南出晃学校教育課長補佐、中西香織学校教育課主任指導主事、奥田研二学校教育課主査

2 会議の要旨

(1) 開会

[事務局]

現時点で6名中4名（後に5名）の出席があり、大津市教科用図書選定審議会規則第5条第2項に規定する定足数を満たしているため、議事を進めることとする。なお、審議会は、協議する議事の内容を考慮し、採択後まで非公開とする。

(2) 本日の議題について

[会長]

本日の審議会の議題について、事務局より提案を求める。

[事務局]

前回まで配布した資料の訂正について説明。

本日の議題は、教育委員会への答申の方法について、推薦図書の決定、答申案について。

(3) 答申の方法について

[会長]

答申の方法について、意見を求める。

意見がないようなので、事務局より提案を求める。

[事務局]

資料に沿って説明。1ページが答申案。「別紙1」は小学校各教科、「別紙2」は中学校各教科の推薦図書。小学校は令和5年度の採択から、中学校は令和6年度の採択から、それぞれ4年間同一の教科書を使用するため、現在使用しているものと同じものを記載している。

「別紙3」は小中学校特別支援学級で使用する一般図書のうち、新規で推薦するもの、「別紙4」及び「別紙5」は新規の図書を含めた一覧表、本日の審議会で推薦図書とならなかったものがあれば、それぞれから削除する。以上を、8月18日に開催される教育委員会定例会に答申する。

<質疑応答>なし

(4) 推薦図書の決定

[会長]

推薦図書の決定理由について、前回までの採択の際はどのようにしていたか。

[事務局]

昨年度までは、評価の集計表をもって推薦理由に代えると審議会で申し合わせがあった。

[会長]

特に異存がなければ、今年度も同様でどうか。

[委員]

異議なし。

[会長]

推薦図書を決定するにあたり、閲覧研究、意見交流及び評価の時間を設ける。

評価方法や推薦図書の決定方法について、事務局より説明を求める。

[事務局]

評価方法及び推薦図書の決定方法について説明。一般図書それぞれについて、特別支援学級での使用に相応しいか否かを各委員が○×で評価する。事務局で○の数を集計し、過半数の○を得た図書を推薦図書とすることについて議決されたい。

<質疑応答>なし

<教科用図書の閲覧、研究（約30分間）>

(5) 教科用図書についての意見交流

[会長]

閲覧、研究した図書について、各委員より意見を求める。

[委員]

支援学級の子どもが使う本。それぞれの子どもに、ということを考えると、どの本もすごく生きる。

[委員]

☆本以外は、普段学校で使用している教科書とは違う視点で見ないといけない。多くの子ども達に一定の知識を与えるのではなく、その子にピンポイントで合うようなもの。一般的にはどのように使うのかと思ってしまうようなものであっても、限定的なものとして見ないといけない。

[委員]

一つひとつの本が特徴的。すごく強みを持っているし、そうあるべき。個性のある子ども達への教科書だと考えると、どの本もよく選ばれている。

[委員]

学校にいる子ども達が使っている姿を思い浮かべると、どれも本当にうまく使えると思えるようなものであった。一方、調査員も色々な視点で調べており、課題も挙げられているので、教員はそれも理解して使わないといけない。

[委員]

先生方の使い方次第、力量による面も多い。いい内容だけれど、少し気になるところもあって、それも含めて、先生方が討論しながら、子どもと向き合う中でクリアできる部分だと思う。色々工夫して使っている場面が想像できる。

[委員]

『おかねのれんしゅうちょう』について、生活、算数／数学となっている。生活科となると、社会と理科のような位置づけであり、お金の学習は必要なのか。皆様の意見を聞きたい。

[委員]

教科をまたいで使用している図書は、他にもあるのか。

[事務局]

ある。一覧を見ていただくとわかるとおり、生活と家庭科で使用している図書などがある。

[委員]

複数の教科にまたがる図書があるとのことだが、生活科に入れておかないと、生活科で選ぶことはできないのか。

[事務局]

そのとおり。生活科として採択しないと、使うことはできない。

[委員]

特別支援学級で生活科の授業をするときに、生活単元学習と絡めて学習するような場面がある。そうであれば、お金の話になると思うが。

[事務局]

生活単元学習は、教科を組み合わせる指導する、特別支援学級独特の教育課程。生活単元学習のなかで、お金の学習なら算数科と、コミュニケーションの学習なら国語科と、など、生活科の学習と組み合わせることがある。

[委員]

教科書として使う使わないは、先生方の判断による。

[委員]

先生方に判断していただけるのであれば、選択肢があった方がよい。

[委員]

特別支援学級では、お金に関する学習をすることは多い。お店屋さんごっこなど、一定のニーズはあると思う。

[会長]

その他、この場で協議すべきことがある方はいるか。

他に意見が無ければ評価に移りたい。

小中学校特別支援学級で使用する一般図書について評価を行う。手元にある評価用紙を記入し、記入ができた方から事務局に提出されたい。

<評価用紙の記入および集計>

(約5分)

[会長]

小中学校特別支援学級で使用する一般図書について集計結果の確認を行う。

事務局より、集計結果の報告を求める。

[事務局]

小中学校特別支援学級で使用する一般図書は、全ての図書が過半数の賛成であった。

[会長]

集計結果をもとに、議決を行う。

特別支援学級で使用する推薦図書について、集計結果では、全ての図書を推薦することとなった。賛成の方の挙手を求める。

全員賛成であったので、原案どおり全ての図書を推薦図書として決定する。

(6) 答申案について

[会長]

答申書の案は、資料に示されているとおりである。小学校各教科及び中学校各教科の推薦図書については、4年間同一の図書を使用することから、このままである。小中学校特別支

援学級で使用する一般図書については、全て過半数の賛成があったため表のとおりとする。
今回決定した推薦図書について、教育委員会へ答申する。

[会長]
閉会宣言

(7) 事務連絡

[事務局]

本日の答申に基づき、8月18日に開催される教育委員会定例会で採択される。なお、採択結果や協議会の会議概要、採択に係る資料については、採択後、準備が整い次第公開する。